

令和 2 年度
七つの星幼稚園自己評価

社会福祉法人学周会
七つの星幼稚園

七つの星幼稚園自己評価

運営管理

評価日 令和3年2月22日

1	子どもの人権を尊重して保育の実地に当たっている	A
2	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	A
3	理念や基本方針が利用者等に周知されている。	B
4	利用者が意見を述べやすい体制が確保されている。	B
5	定期的な職員会議等を通じて職員の資質向上、業務効率化や改善等に努めている。	A

守秘義務

1	園児の個人記録は個人情報保護法に基づいて管理・保管している	A
2	園内で知り得た事柄について守秘義務を徹底している。	A

安全・危機管理

1	事故防止等のチェックリストがあり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている。	A
2	調理場、水回り等の衛生管理は、マニュアルに基づいて適正に実施されている。	A
3	園内の施設整備・遊具等の安全点検は定期的に行っている。	A
4	外部からの侵入者に対し対応策がなされ訓練が行われている。	A

保育環境

1	保育環境を常に清潔に保ち、美観を大切に心地よい環境で保育が出来るように努めている	A
2	室内の温度、湿度、換気、照度などは園児の活動に合わせて配慮している。	A
3	季節の草花を飾り、保育の中で園児が季節感を感じるような配慮を行っている。	A
4	屋外では園児が安全に活動しやすい環境を整えている。	A

健康管理・衛生

1	園児の健康診断は定期的に行われ、その結果は職員や保護者に伝達され保育に反映されている	A
2	日々の園児の健康状態を観察し、一人一人の体調に合わせた保育を心がけている。	A

3	玩具、遊具等については常に衛生的に保持している。	A
4	乳児突然死症候群や感染症等の予防対策やマニュアルが用意されている	A

保育内容

1	子供一人一人への理解を深め受容しようと努めている。	A
2	基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の状況に応じて家庭と連携して対応している。	A
3	園児の発達に応じた玩具や遊具を質・量ともに適切に用意し、子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	A
4	身近な自然や社会と関われるような取り組みがなされ季節感や豊かな感性を育む配慮をしている。	A
5	様々な表現活動が体験できる様に配慮されている。	A
6	遊びや生活を通して、人間関係が育つように配慮している。	A
7	障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	A
8	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	A

食育

1	旬のものや季節感のある食材を用意し、食文化を伝える工夫をしている。	A
2	園児の発達に応じ食事の介助を適切に行い、落ち着いた環境で和やかに楽しく食事が出来る環境がある。	A
3	毎月の献立は保護者に示され、毎日の食事の状況を保護者に知られている。	A
4	食物アレルギーのある園児は、栄養士、調理師、と職員で連絡を密にとり除去食で対応している。	A

子育て支援・地域交流

1	園児の送迎時に園児の様子を保護者に伝えている。	A
2	虐待を受けていると疑われるこどもの早期発見に努めている。	A
3	保育参観の機会を設け、保護者に保育を理解してもらう工夫をしている	A

4	中高生の職場体験や実習生の受け入れ態勢について、その意義や方針を全職員が理解している。	A
5	近隣の人々に保育について理解を得たり、協力依頼を得たりするなどの配慮をしている。	A
6	小学校との間で、小学生と園児などが交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの連携の機会がある。	C
7	保育園の活動や行事に地域の人々の参加をよびかけるなど、子供が職員以外の人と交流できる機会を確保している。	A
8	子どもと地域の交流により、子供の生活の充実と地域の理解を深めている。	A

評価

A 十分達成されている B 達成されている C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

次年度に向けた改善点

- 1, 正月明けと同時に県外在住者との交流からコロナに感染した疑いがあると園児の家族からの報告があり、その後感染が確認された。幸いこの1件で収まったが、起こった事例から学ぶことも多かった
感染症対策に、手洗い、うがいなどの基本的な習慣がいかに大切かを改めて気づかされた。今後も心して取り組む。
- 2, 認定こども園への移行と共に、学校薬剤師による園舎内の衛生管理が義務付けられた。子どもたちの健康は、目に見える清潔だけでなく、科学的な検証が必要である。園舎内外の環境整備に当たり、点検事項に留意した対応をさらに進めていく。
- 3, 小学校との接続については新型コロナウイルス感染症対策のため十分な交流が出来なかった。
今年度は施設見学をはじめ子どもたちの園外での体験活動、地域との交流等が激減した。次年度についてはコロナの終息が見えない中、どこまで出来るかわからないが、「どうしたら出来るか」を考えながら、子どもたちにとって大切な今を、失われた時間にしないように取り組んでいく。